

## ペルー 主産地イカ県の生食用ブドウは順調

FreshPlaza 2023年12月6日

ペルーの生食用ブドウの出荷シーズンは非常に困難で早いスタートを切った後、イカ県(南部)の産地では出荷のピークを迎える。サフコペルー輸出会社のベンハミン・シヨニス統括部長は、「天候は極めて良くなった」と言う(以下「」は同部長の発言)。「この地域では収穫が大変早く始まったが、厳しい冬もなく、非常に良い条件に恵まれている。現在、気温(主に最低気温)が高い状態が9か月続いた後、極普通の春を迎えている。」

同氏は、初めての中国向けブドウの出荷と米国市場での良い価格に大変満足していると言う。「先週、中国に初めての荷が到着したが、市場は非常に良好である。米国では、何週間も入荷と価格が順調だ。ピウラ県(北部の主産地)ではあと数週間で収穫を終えるはずなので、ペルー産のピークはスムーズになるだろう。」

エルニーニョの影響で暖冬となり、ペルーの生食用ブドウの出荷シーズンは早く始まった。「安定した南風が吹いているため、ペルー沿岸の過度の暑さが緩んできており、ここ4、5週間は平年並みの状態が続いている。高地の雨は少し早く降り始めた。先週から川が増水しているので、これは当県にとっても良いことだ。」

シロニス氏は、ペルー産生食用ブドウの残りの収穫期間について、天候が好転したため今では非常に希望を持っていると言う。「世界中が多くの問題を抱えているので不可能に聞こえるかもしれないが、イカ県は生食用ブドウ生産の楽園であり、今年は我々にとって夢のシーズンになるかもしれない。天候が正常化したので、イカ県では遅い剪定を行うことによって3月まで収穫を延ばすことができるが、谷の地域では雨が降る可能性が高いため、多くの生産者が遅い剪定の機会を活用しなかったと承知している。弊社としては、すでに約40%の果実を収穫しており、年末までに70%を超えると予想している。」

同氏は、生食用ブドウ産地としてのイカ県の長所を称賛する。「私がイカに愛着を持っていることは誰もが知っているが、生食用ブドウを育てるのにこれほど適した場所は世界でほかにはないと本当に思っている。そのため、この地域の栽培面積を増やすことはできるが、雨季に貯水することによって水管理を改善する必要がある。ペルーの北部では収穫が早く、市場の条件が良いかもしれないが、その自然環境は厳しい。」

執筆者: クレートン・スワート

## ニュージーランド ホークスベイ地方のリンゴは回復の兆し

FreshPlaza 2023年12月7日

ニュージーランドのホークスベイ地方のリンゴ栽培は、サイクロン「ガブリエル」やその他の悪天候の影響から回復する兆しを見せている。ニュージーランド・リンゴ・ナシ協会の市場アクセス部長であるダニエル・アドセット氏は、生き残ったリンゴの木は花を咲かせており、有望に見える」と述べた。春の天候が受粉に適した好条件であることが、今シーズンの見通しをより楽観的にする一助となっている。

一部の生産者は、着果した果実について慎重ながらも楽観的であるが、前年に経験した問題のために今も財政的な負担に直面している生産者もいる。サイクロンを生き延びた果樹園は回復しつつあるが、果樹園の一部または全部を失った生産者もあり、改植と復旧は大きな課題となっている。

当初は、ホークスベイ地方とギズボーン地方の約2千ヘクタールのリンゴ園が危機に瀕していると考えられていたが、その地域の多くの果樹が生き残り、業界の懸念は一部軽減された。ただし、アドセット氏は、果樹園を失った生産者にとっては厳しい状況であるとしている。

明るい兆しはあるものの、一部の果樹は今後数年間、依然として課題に直面する可能性があり、サイクロンの影響は完全には終わっていないという認識がある。同氏は、果樹の生存率は「植物刺激剤」(バイオスティミュラント)の施用や土地の排水性等の要因によって影響を受けるため、結果にばらつきがあることを強調した。

最近の大雨はギズボーン地方で何らかの問題を引き起こした可能性があるが、ホークスベイ地方では、予想される乾燥した夏に先立って土壌水分レベルが上昇し、タイムリーであったと考えられている。ホークスベイ地方のリンゴの作柄に関する評価は、同協会が1月に発表する今シーズンの収穫予測で明らかになる。

出典: [www.ruralnewsgroup.co.nz](http://www.ruralnewsgroup.co.nz)